

長崎の林業

小曾根星堂書



長崎県民の森で見られるタマゴタケ

10

目次

●林政だより	行楽の季節到来 ～長崎県民の森への誘い～ …… 2～3
●特集記事	父子伐倒士 井川三男さん 和彦さん …… 4～5
●林業普及だより	林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会 …… 6
●地方だより・県央	令和最初の山の日も轟峡に全員集合!! …… 7
●地方だより・県北	佐世保林業研究会による親子木工教室を楽しもう! …… 8
●林業団体情報	インタープリター養成研修会 …… 9
●センターだより	短伐期施業の実施に向けて～早生樹現地適応化試験～ …… 10
●紹介コーナー	ヒラギのはね …… 11
●11月9日(土)	長崎県民の森にて「ふるさとの森フェスタ」を開催します …… 12



2019
No.769

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう!

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

行楽の季節到来 ～長崎県民の森への誘い～



10月になり、行楽の季節が到来しました。この秋は自然豊かな森林の中を散策してみませんか？綺麗な紅葉、森の香り、綺麗な溪流が皆さんを迎えてくれます。耳を澄ませば、水が流れる音、風の音、鳥の声が聴こえ、疲れた体と心を癒してくれるはずですよ。

今回はそんな森林散策にぴったりの「長崎県民の森」をご紹介します。

長崎県民の森とは？

長崎県民の森は、面積382ha、長崎市、西海市の2市にまたがって位置する西日本有数の規模を誇る森林公園です。

展望台からは、眼下に大村湾、遠くは平戸や五島列島まで絶景が楽しめます。

明治百年記念事業の一環として、昭和42年度から整備に着手し、昭和43年3月に開園しました。当時は面積82haでしたが、平成6年に隣接する国有林約300haを購入し区域を拡大するとともに、数年をかけて施設の拡充・整備を行ってきました。

園内には、ヒノキ等の森林を始め、キャンプ場、アスレチック、天文台等、さまざまな施設が整備されています。

他にも園内の至るところに様々な樹木や花が植えられており、季節ごとに様々な顔を見せてくれます。これからの季節は綺麗な紅葉を見ることができます。

昼は森林散策、バードウォッチング、木工

体験、沢遊び、夜は天体観測と1日中自然に触れ合って過ごすことができますので、ぜひ宿泊して県民の森を満喫してください。

キャンプ場等宿泊施設は年間通してのご利用が可能です。バンガローや森の交流館（研修施設）もございますので、ぜひ、ご家族や団体でご利用ください。森林の中での体験や美しい夕日、満点の星空は一生の思い出になること間違いなしです。

利用の予約は県民の森キャンプ場管理棟（0959-24-1660）又は県民の森ホームページにて受け付けております。



森林散策の様子

（平成30年度フォトコンテスト入賞作品）

森林館

「初めて県民の森を訪れたけど、敷地が広くてどう散策すればいいのかわからない」という方は、まず森林館を訪ねてみましょう。各種パンフレットや案内が置いてあります。森林館管理事務所には職員が駐在していますので、お気軽にお問い合わせください。

また、「森への誘い」「森へ行こう」「森を知ろう」「森で遊ぼう」をテーマに、森林に関する様々な展示品・情報を提供していますので、長崎県の森林・林業について、楽しみながら学ぶこともできます。



森林館展示物（長崎県の林業について）

さらに、平成30年4月に長崎県民の森50周年の記念事業の一環として子供用のボルダリング施設が導入されました。ボルダリングは2020年東京オリンピック競技になっているスポーツクライミングの種目の一つで、今後ますます関心が高まることが期待されています。子供たちに大人気の施設となっておりますので、ぜひ体験してみてください。



ボルダリング施設

イベントについて

県民の森では、年間を通して楽しいイベントを随時開催中です。

これからの時期は「どんぐりの秘密展」、「紅葉狩り健康ウォーキング」といった、秋にぴったりのイベントを予定しています。

事前予約制のイベントもありますので、県民の森ホームページをこまめにチェックしてください。

また、県民の森ボランティアであるインタープリター（森の案内人）の方々から、森林や自然について、色々とお話を聞くこともできます。

利用料金が改定されます

消費税増税に伴い、10月1日より、キャンプ場等の有料施設利用料金が改定されました。

詳しい改定料金については、県民の森ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。

その他の情報

県民の森の入り口（ゲート）は計4箇所ございますが、現在西ゲートと北ゲートは封鎖されており通行できません。正面ゲート、もしくは東ゲートからご来場ください。

キャンプ場、森の交流館、天文台に行く場合は、正面ゲート、森林館、青少年キャンプ場に行く場合は、東ゲートが便利です。

開園時間は、9時から17時までとなります。正面ゲートと東ゲートは17時に閉まりますのでご注意ください。※天文台の開館時間帯は正面ゲートを開いています。

【お問い合わせ先】

○長崎県民の森 森林館管理事務所

〒851-2421

長崎県長崎市神浦北大中尾町 693-2

TEL:0959-24-0181 FAX:0959-24-1666

○キャンプ場管理棟（宿泊予約）

TEL:0959-24-1660

○ホームページ

「長崎県民の森」もしくはこちらのQRコードで検索⇒



（林政課 森林活用班）

【特集記事】



おやこ
父子伐倒士

みつお
井川三男さん

かずひこ
和彦さん

まわりは炭焼きばかりだったとおっしゃる山間集落に生まれ、中学を出てすぐに父親と山の現場に入った井川三男さん（72歳）。まわりが山の生業から去っていく中、現在もご子息の和彦さん（42歳）と共に、井川林業を経営。昭和から平成の県内の木材業界の消長、林業史を現場から見つめてきました。（写真は井川三男さん）

ぽつんと造林小屋

大村市の最深部黒木溪谷の、人家の絶えたところに、井川林業はあります。社屋というより造林小屋という趣ですが、勧められて腰を下ろさせていただいたテーブルは、巨大な自然石、佐賀の多久に産出する、天山ナポリオン石^{*}と呼ばれる銘石^{とい}のこと。

建物の周囲では、竹の樋が沢から引いてきた水を絶え間なく流していて、その湿り気で苔むした土には、マニアならば垂涎ものの山野草が、株を増やしていました。



樋を流れる山水の音が癒してくれます

市境、^{そまみち}県境を^{そまみち}杉道で越える

林業の生き字引と言われる井川三男さん。最初の本格的な現場は、高来町黒新田だったそうです。三男さんが中学を出てすぐ、昭和39年頃のことです。

大村市の黒木と諫早市の黒新田、どちらも多良山系の奥まったところにあります。現場へ行く際には、山越えの杉道を歩いて通ったとの話は、人の設定した行政区画より、地形や森林植生といった自然の有様の方がよほど意味を持つ山のプロ集団の暮らしぶりをいかにも彷彿とさせる話です。

今でも仕事現場の大半は佐賀県側だそうですが、木材の等級や造材についての注文は、佐賀県の業者の方が厳しいものがあるという話でした。

話を黒新田に戻しますと、当時高来町が13町歩の山の木のうち、1尺以上の直径を持つ大木を払い下げに出しました。これを地元の業者と折半して買ったそうです。そして、径1mに及ぶようなタブの巨木を、木馬とろくろで搬出し、大川の家具屋に卸しました。また、小ぶりのシイノキやクヌギなどは、当時はま

だ珍しかった椎茸の林内栽培に使い、できた椎茸を茶碗蒸し屋さんに直に2トン車で運び、ずいぶんと「稼がせてもらった」そうです。当時の種ごまは今の木の駒菌タイプではなく、ナタ目に打ち込むくさび型であったそうです。近くに住む本家の父子など、4世帯ほどの働き手と共同での、ランプを灯した山の飯場暮らしは、数年に及ぶものでした。

斜陽の時代

搬出の主力が架線集材に移った、昭和40年代半ばになりますと、林業全体が斜陽の時代を迎えます。三男さんが20歳前後の頃大村市内にあった主だった製材所が、次々に店を閉じていきますと、一時木材運送を中心とした運送業を営みました。しかし間もなく、五島の木材業者が本土に進出し、五島で不足しがちのスギを本土の山から仕入れ、五島に豊富なヒノキを本土に卸すという事業を展開します。現在、県内でも知られた建設会社へと成長することになるその業者から伐採の業務を請け負うという形で、再び井川さんは山に戻ります。三男さん24歳の頃。後にその業者が大村市に製材工場を開く際には、職を失った大村の製材職人を、職員として何人も世話したということです。仕事の範囲も九州一円に広がり、3.5坪ほどの小屋を大型トラックに積み込んで、数人の職人と山で飯場暮らしをする日々が再び始まります。件の製材工場が10年程前に閉鎖され、会社が木材業から、建設業に事業の軸足を移すまでそれは続きました。その間に当時県内では珍しかったグラップルやプロセッサを導入し、先進的な施業を行っていたそうです。

父子伐倒士

現在、井川さんは72歳。42歳になるご子息和彦さんとともに現役の伐倒士として活躍されています。近年、伐採の現場作業は、大型の林業機械を用いるスタイルが主流となっており、それにはどうしても作業道の開

設が不可欠です。一方で井川さんのように、手作業で伐採し、索道で集材するスタイルは、発注する側からは安く上がります。そのため、林業界ばかりではなく、土木、建築の業界や、公共工事の現場からの発注は、途切れることはないとおっしゃいます。

和彦さんは、お父上と同様、中学を出てすぐにこの世界に入られたとのこと。もう25年余り、二人で仕事をされていることになります。三男さんに、「この危険な現場に息子さんが入ってこられることに躊躇はありませんでしたか？」と水を向けると、「無くはなかった」と口ではおっしゃいます。が、その顔は、「親父がやり、自分がやり、してきたことを、倅がやっているだけの事。ごく自然な流れだ」と語っていました。

仕事も山、道楽も山

暇があると、登山をされるそうです。やはり息子さんと一緒に。九州の主だった山はほとんど制覇されたといえます。

『「仕事で山ばかり行って、暇な時も山か？」とは、よく言われる。』とご本人も認めておられました。

「けれど、木を知っていると登っている途中も楽しめる。同じ木でも、生えている場所によってずいぶん性質が違っている。自分の山登りは、途中を楽しむ山登りだ。」こう語る井川さん。どこを切っても山の人でした。

(NPO 法人地域循環研究所)

※天山ナポレオン石は現在佐賀県の天然記念物に指定され、採取は禁じられています。このテーブルは、指定以前に作られました。

林業普及だより

林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会

五島振興局では、林業に興味がある五島市の建設業の方々に人工林の間伐における伐採作業の基本と安全作業知識を学習いただき、林業への参入を促す目的で「林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会」を五島市富江町の市有林で開催しました。

長崎県林業協会に開催を委託し、全国各地で講師実績を持つ、株式会社長崎林業の城臺（じょうだい）取締役と森保技術員を講師に招き、五島市内の建設業3社12名に参加、受講いただきました。

伐倒作業基本の実体験

最初に、参加者へ間伐の意義と安全作業に関する基礎知識を説明し、チェーンソー取扱の注意点を理解してもらいました。

次に、事業者が作業員への防護服着用を義務付けることや、建設業だけでなく林業においても伐倒作業時の指差し呼称を行う等、基本動作を守る説明を行いました。

講師による伐倒実演では、講師がヒノキの伐倒を行い、実際にどのような考え方と作業の流れで伐倒作業を行うのかを解りやすく説明し、危険とされるかかり木処理についても講師が実演しながら、作業手順の意味、理由を説明しました。

その後、参加者各自で伐倒作業の実体験をしてもらいました。

参加者全員が建設業での低木伐採経験はありましたが、人工林でのヒノキの伐倒、かかり木処理は初めての体験とのことで、熱心に講師の実演を観察し、説明に耳を傾けていました。

参加者からは「伐倒方向はどう決めればよいか?」「安全なかかり木処理の方法は?」等多くの質問も挙がっていました。

また、参加者持参のチェーンソーを講師に確認してもらい、メンテナンス方法やソーチェーンの目立てについても指導を受け、目

立ての角度と深さが重要であることを学習いただきました。



チェーンソーメンテナンスの指導状況

林業参入に対する期待と現実

有意義な研修会でしたが、「この研修だけで安全対策を万全と考え、早急に林業参入、伐倒作業をお任せしてよいのか?」と、開催した県と講師が疑問に感じました。

チェーンソーのメンテナンスや目立て方法が解らない等「伐倒作業以前に必要な知識、技能をもっと身に付けていただく必要があるのでは?」「人命に関わる伐倒作業の基礎知識と危険回避する技能を最低限身に付けなければ、重大事故が発生し逆効果となる」との思いから、今後3年から5年程度、安全作業研修を継続開催することにしました。

今回の研修で、建設業から林業へ早期の参入を期待していましたが、「人命の確保と安全作業の基礎知識を十分に理解し、技能を身に付けていただくことには時間がかかる」と改めて実感し、開催者側の安易な期待に気づかされた研修会でした。

今後は五島市の協力もいただき、研修会を継続実施して参加者の知識、技能を講師が判断し、「参加者が単独で伐倒作業できる」と判断できれば、実際に林業参入体制を事業者に整備いただき、間伐に取り組んでいただくこととします。

(五島振興局林務課)

令和最初の山の日も轟峡に全員集合!!



山の日イベント開催

山の日は、「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」ことを趣旨として制定され、今年で4年目を迎えました。県央振興局では、8月11日に諫早市、諫早市観光物産コンベンション協会、ボランティア団体と協力し、諫早市高来町の轟峡にて、山の日イベント「令和最初の山の日も轟峡に全員集合!!」を開催しました。

轟峡は、多良岳山系に源を発する溪谷の1つで、「名水百選」や「水源の森百選」に認定されています。今年も、森の魚釣り、森のクライムシャワーや轟溪流トレッキングなど各団体による様々なイベントが行われました。

森のキャンプ気分

県央振興局では地域づくり推進課と林業課が協力して、「森のキャンプ気分」として「竹ご飯（飯ごう炊飯）と竹箸（竹細工）」、「丸太積み挑戦」を実施しました。

竹を使った炊飯体験では、竹をノコギリやナタで加工し、飯ごうを作ります。ノコギリをはじめて使い、思うように切れない子どもたちも保護者の方と協力し製作しました。炊き上がった竹ご飯を食べた参加者からは、「自分

で作った飯ごうや箸で食べるとおいしい」、「竹のいい香りがする」などの声が聞かれ、好評でした。

また、ながさき森林環境税のPRうちわを森のキャンプ気分参加者へ配布、イベント総合案内所へ設置し、夏の暑さをしのいでいただきました。



普段生活していると、森に入ることや木材に触れる機会は少ないですが、山の日イベント等に参加し、自然にふれあい、森林や林業について興味・関心を持ってもらえたら、と思います。

(県央振興局 林業課)

地方だより

佐世保林業研究会による親子木工教室を楽しもう！



7月27日(土)、佐世保市のえぼしスポーツの里で「えぼしで夏休み 親子木工教室」が、佐世保林業研究会の協力により開催されました。

佐世保林業研究会は、林業に携わる者同士の相互研鑽と県北地域の林業振興を目的として、昭和62年に設立された研究会です。



佐世保市林業研究会のメンバー

会長の岡幸夫さんは、「今の子どもたちは、遊びと言えばゲーム機が多くて、外遊びが少ないと感じます。親子で木工を楽しんでもらい、木のぬくもりに触れて、物を作る楽しさを伝えられたらと思いこの教室を始めました。」と力強く語られました。

当日は、朝からの強い雨にもかかわらず、市内の親子連れなど33組、約100名が参加し、佐世保林業研究会が準備したスギやヒノキなどの材料を使い、本棚やペン立てなどを作りました。

子供たちも保護者も、普段の生活でクギや金づちを使うことがなくなってきているせいか、最初は何から始めればよいか戸惑っている様子でしたが、佐世保林業研究会のおじさんたちに作り方を教えてもらって、親子で一緒に木の香りを楽しんだり、やすりがけをして木の手触りを感じたりと、普段できない体験を満喫していました。作った作品は、いつまでも大切にしてほしいと思います。



岡会長と記念撮影

この活動は、毎年、夏休みに小学生の親子を対象に実施して、今年で6回目の開催になります。今後も毎年夏にはぜひ、えぼしスポーツの里でのイベントに注目してみてください。

(県北振興局 林業課)

インタープリター養成研修会



インタープリター会 植木会長による研修の様子

研修会の開催

令和元年 8 月 25 日に長崎県民の森 森林館にて、長崎県民の森で活動するボランティア「インタープリター（森の案内人）」の養成研修会が開催されました。

インタープリター会は、県民の森での多様な活動を来園者とともに体験し、森林等の魅力やすばらしさを伝えるボランティアとして、平成 12 年度に設立され、今回の研修受講者は第 16 期目の登録者となります。

研修会では、インタープリター会植木会長より、インタープリターの活動内容や活動するうえでの心構え等について話をいただきました。

植木会長は、第 1 期からの登録者であり長年天体観測の解説者として県民の森を支えて下さっています。ご自身の経験も踏まえたお話は受講生にとって大変参考になったのではと思います。また、会長自身も星が大好きで、その魅力を多くの方々に伝えていきたいという思いが伝わってくる講義でした。

その後、インタープリター会各部会より活動紹介と県民の森 田中所長から県民の森の概要説明を行い、研修は無事修了しました。

各部会の方々には、新たに仲間を迎えるということで気合の入った部門紹介をしていただきました。

現在約 60 名がインタープリターとして登録され、県民の森で活躍されています。今回新たに登録された 3 名の方々にも、先輩方同様、

県民の森の魅力をしっかり伝えることのできるインタープリターとして活躍していただけることを期待しています。

インタープリター会とは

インタープリター会は自然観察部会・木工クラフト部会・ネイチャーゲーム部会・オリエンテーリング・ウォーキング部会・天文部会の 5 つの部会からなる組織です。

インタープリターとして登録を受けたものは、いずれかの部会に所属し、各々の部会でイベントを開催したり、来園者からの要請があれば解説や活動補助をする等、県民の皆様が県民の森をより楽しめる活動を行っています。

イベントの案内は県民の森ホームページに随時掲載しています。10 月、11 月はどんぐりのひみつ展を開催予定です。大人気のイベントですので、ぜひご参加ください。

インタープリター会の窓口は県民の森管理事務所となっております。お問い合わせは下記までお願いします。

【お問い合わせ先】

○長崎県民の森 森林館管理事務所
〒 851-2421

長崎県長崎市神浦北大中尾町 693-2
TEL:0959-24-0181 FAX:0959-24-1666

(長崎県民の森インタープリター会)

短伐期施業の実施に向けて ～早生樹現地適応化試験～

どうして「早生樹」？

長崎県では、主にスギ、ヒノキを用いて建築材の生産が行われてきました。現在、森林資源が充実しており、主伐・再生林の増加が予想されますが、スギ、ヒノキは植栽から伐期を迎えるまでに50年ほどかかるため、森林所有者の収入になるまでには長い期間がかかります。

そのため、植栽してから伐期までの期間が短く、下刈り費用の低減等が期待される早生樹が注目されています。

早生樹とは短伐期で収穫が可能で、家具や建築材となる樹種のことです。近年家具などに利用する広葉樹の資源の枯渇が問題となっていますので、家具材としても期待が高まっています。

農林技術開発センターでも、平成29年度より「早生樹現地適応化試験」として数種類の早生樹を諫早市にある県有林目代団地に植栽し、成長特性や長崎県に適した樹種を明らかにするための試験を行っています。

平成29年度は、センダン、チャンチンモドキ、コウヨウザンなど7樹種（表1）、平成30年度には、キリ、コウヨウザン、ヒノキエリートツリー、少花粉ヒノキの4樹種を植栽しました。

植栽1年後の成長量

平成29年度に植栽した早生樹の約1年後の成長量を表1に示します。チャンチンモドキ、コウヨウザン、センダンの順で樹高成長量が大きくなっています。

○表1 植栽1年後の各樹種の成長量

樹種	成長量	
	樹高(cm)	根元径(mm)
チャンチンモドキ	113.0	20.3
コウヨウザン	54.6	9.9
センダン	48.2	5.6
モミジバフウ	46.2	9.6
ユリノキ	36.1	10.8
ウリハダカエデ	22.3	5.0
モミ	2.9	2.3



最も成長の良いチャンチンモドキ

しかし、早生樹はスギの適地と同じ肥沃な谷部で成長がいいものの、尾根筋では成長が悪いものが多いことから、今後植栽する場合には樹種ごとに合った場所を選定する必要があります。

今後の実用化に向けて

早生樹については、数十年前から植栽され、研究されているものもありますが、数年前から全国的にクローズアップされ、研究が始まった樹種も多い状況です。初期成長だけでなく、今後の成長や病害虫、用途に合った施業方法などについて検討していく必要があります。また、材質について不明なものもありますので、情報収集に努めていきます。



試験地の状況

(農林技術開発センター)

紹介コーナー ヒイラギのはね



ヒイラギのはねは2006年にオープンした手芸と雑貨のお店です。販売する雑貨はハンドメイド、雑貨、洋服、資材など多種多様で、いろいろな国のいろいろな年代のいろいろなものがあり、おしゃれな木材雑貨なども取り扱われています。

8月末に行われたイベント展では店内に木こりコーナーを作り、薪やエッセンシャルオイル、アロマなどの林産品、チェーンソーの模型や木こりキーホルダーなども販売されていました（現在はイベント終了につき一部商品の取り扱いはありません）。ときめきと懐かしさがいっぱい詰まった宝箱みたいなお店「ヒイラギのはね」、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

ヒイラギのはね

〒857-0877

長崎県佐世保市万津町 5-5

シーガーデン 2F

電話：0956-76-8561

営業時間：11:00～18:00

定休日：木・日曜日

HP：<http://ameblo.jp/hiiragi-gk/>



伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和元年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	17,200	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	15,600	多い	普通	普通
	20~22	直	16,500	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	15,300	多い	普通	普通

【スギ】

令和元年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,700	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,600	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

11月9日（土）長崎県民の森にて ふるさとの森フェスタを開催します



昨年度開催された「長崎県民の森開園 50周年行事県民の森であそぼう！もりフェスタ
森の遊園地の様子（長崎県森林ボランティア支援センター）

県民の皆様が森林と触れ合い楽しむことで、森林を守り育てていくことの大切さを広く県民に理解してもらおうとともに、県産材の活用意識の向上、また、平成 19 年度より森林づくりのために導入されている「ながさき森林環境税」の PR を目的として 11 月 9 日（土）10 時～ 15 時、長崎県民の森 森林館前芝生広場において、「ふるさとの森フェスタ」を開催します。

ステージ内容

森林館前のステージ（雨天時は森林館の中）では、①ながさき県民の森フォトコンテスト 2019 表彰式、②森の演奏会、③森の紙芝居を披露します。

①では、長崎県民の森での四季折々の自然風景や生き物、家族や団体に訪れた人たちが楽しんでいる様子や思い出の写真を撮った入賞者の表彰します。②では、管楽器とピアノのアンサンブル、二胡、鍵盤ハーモニカの演奏、合唱（各 20 分）が行われます。③では、「もりのかくれんぼう」というお話を 2 人で朗読します。

出展ブース

①長崎県林政課による森林環境税の PR、
②長崎県民の森関係団体による地域農林産物の販売と長崎県緑化推進協会と共同による

森林の集い（森林ウォーキング）③森林ボランティア団体による木工体験、木工品・竹細工・手作り雑貨等の販売、④ケータリング（たこやき、唐揚げ等の販売）、⑤長崎県森林ボランティア支援センターによる間伐材を使った木工遊具の展示（ブランコ、シーソー等）、山かけあがり大会など盛りだくさんの内容となっています。

11 月 9 日（土）、は是非ご家族そろって長崎県民の森に遊びにいらして下さい。

※駐車場台数に限りがありますので、満車の際はご了承ください。

共催

（一社）長崎県林業コンサルタント
（公社）長崎県緑化推進協会
長崎県森林ボランティア支援センター

（NPO 法人地域循環研究所）

長崎の林業 10月号 第769号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp